

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
学びの力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	「αドリル」や「計算のたしかめ」を使って計画的に学習を進めているので、基礎的な学力の定着が図れている。「漢字ドリル」や「計算ドリル」を使って反復練習にも取り組んでいる。	今までに引き続き、系統的に「αドリル」や「計算のたしかめ」等を計画・実施し、基礎・基本を徹底させていく。できないところは、家庭での自主学習で復習を促していく。	○自分の考えを友だちの考えと比べて自分の考えを深めることについて、児童の意識が強くなっていることが良いと感じた。これから大きくなるにつれて、自分の考えを持つこと、他の人との違いも考えられるようになることは、重要なことだと考える。継続して、さらに意識高めていけると良い。 ○「読書習慣が身に付いている」の指数が低いのが、全く読まれていないこともないので、この項目については、世の中の環境の影響も関係しているのではないかと思う。 ○読書については、自主的でないとなかなか読まない。今の段階で必要なことは、子どもに読書を求めるだけではなく、親子で読書する環境を設定することについて論議が必要かと思う。 ○「読書週間」の期間中に自分の好きな本について、学級でプレゼンをする、より多くの人に読んでもらえるように帯を作る等の工夫をする。
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	99			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	91			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	自分の考えや思いを自分の言葉でのびのびと表現できている。個人差もあるが、それぞれ個々に向上が見られる。	伝える場や受け止める場を今後も設定し、継続して帰りの会や行事の感想発表等を設定して取り組み、さらなる向上を目指す。	○目標指数を下回っているものは、学校というより、家庭内で解決すべき問題であり、保護者も一緒になって取り組まなければ、学校の指導だけでは絶対に改善できないものとなっていると思う。小さい頃からの家庭内での自主学習や読書習慣等が子どもを大きく成長させると思う。こうしたことをもっと保護者に伝え、保護者、家族、学校が一体になって取り組むことが大切だと思う。 ○課題の取組み方を児童も保護者も達成感が得られるように変えてみたらどうか。 ○保護者の評価が目標を下回るものがあるが、保護者の「もっと勉強（読書）をしてくれたら…」という負の主観が作用しているためだと思う。半面、保護者の評価が一番客観的なのかとも思う。
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることができている。	児童	成果指標	80	94			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。	教師	取組指標	90	100	対話的な授業に継続して取り組んでいる中、さらに主体的に取り組む授業をつくっていく必要がある。また、自主学習については、積極的に取り組むような意識を高める必要がある。	新年度に自主学習のやり方や内容についての手引書を配付し、具体的な方法や内容を指導していく。学年ごとに差ができないように学校で一貫した指導を行う。	○目標指数を下回っているものは、学校というより、家庭内で解決すべき問題であり、保護者も一緒になって取り組まなければ、学校の指導だけでは絶対に改善できないものとなっていると思う。小さい頃からの家庭内での自主学習や読書習慣等が子どもを大きく成長させると思う。こうしたことをもっと保護者に伝え、保護者、家族、学校が一体になって取り組むことが大切だと思う。 ○課題の取組み方を児童も保護者も達成感が得られるように変えてみたらどうか。 ○保護者の評価が目標を下回るものがあるが、保護者の「もっと勉強（読書）をしてくれたら…」という負の主観が作用しているためだと思う。半面、保護者の評価が一番客観的なのかとも思う。
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができている。	児童	成果指標	70	97			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	67			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	学校では毎日読書時間を十分に確保できている。毎日10分以上を目指し、家庭読書に取り組んでいるが、まだ不十分である。	具体的な読書時間をおうち読書カードに掲載しているため、目標を立てて取り組めるように指導する。国語科などでの読書を利用した学習にもさらに取り組み、学年をこえて交流させ、読書への興味関心を高める。	○課題の取組み方を児童も保護者も達成感が得られるように変えてみたらどうか。 ○保護者の評価が目標を下回るものがあるが、保護者の「もっと勉強（読書）をしてくれたら…」という負の主観が作用しているためだと思う。半面、保護者の評価が一番客観的なのかとも思う。
				自分で設定した冊数以上本を読むことができている。	児童	成果指標	80	76			
				子どもは、読書の習慣が身に付いている。	保護者	満足度指標	80	57			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	100	ICTやタブレットを利用した授業が少しずつ定着してきているので、今後も積極的に活用していく。	今後も積極的にICTやタブレットを活用し、デジタルドリルを隙間時間に活用していく。	○課題の取組み方を児童も保護者も達成感が得られるように変えてみたらどうか。 ○保護者の評価が目標を下回るものがあるが、保護者の「もっと勉強（読書）をしてくれたら…」という負の主観が作用しているためだと思う。半面、保護者の評価が一番客観的なのかとも思う。
				ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。	児童	成果指標	80	99			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
ゆたかな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	100	ソーシャルスキルトレーニングにより、より良い人間関係が構築されている。学校が楽しいという児童がほとんどだが、悩みを抱えている児童がいれば、早期対応する。話をよく聞き、支援体制を整え、居心地のよい学校づくりを継続していく必要がある。また、上級生が下級生のお世話をしたり、優しく接したりする雰囲気定着している。挨拶に関しては、委員会活動で「あいさつ運動」を行い、コロナ禍ではあるが、児童も教員もあいさつに関する意識がとても高まり、明るい挨拶ができるようになったと感じる。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを継続し、さらにより良い人間関係づくりを向上させていく。各学級で全ての活動を通して、言葉遣いの指導をしていく。話し方のきまりを各クラスに掲示する。今後もこうした取組を継続していく。挨拶については、今後も全校集会や委員会活動等を通して挨拶指導や言葉遣いの指導を取り入れていく。そしてクラスにおいては担任による指導をしっかり行う。また、お便りやアンケートを通して挨拶運動を啓発していく。	○全校児童が顔を覚え合い、学年を超えた取組ができおり、良い環境で学校生活を過ごせていると思う。地域の方々の協力を得て、さらに体験の場を広げていってほしい。
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつ、正しい優しい言葉づかいができています。	児童	成果指標	80	97			
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	保護者	満足度指標	80	91			
				ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、子ども同士のよりよい関係づくりに努めている。	教師	取組指標	90	100			
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	100			
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	96			
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100			
				相手の気持ちを考え、相手が嫌がることをしないようにする	児童	成果指標	90	95			
	学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	100						
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための事前・事後学習を心掛けている。	教師	取組指標	90	100	縦割り班活動や体験活動は、自主性や思いやり、認め合う心を育てるのに有効であった。コロナ禍2年目の今年度は、感染状況が落ち着いたときに、進んで「なかよし集会」を計画し、楽しく縦割り活動を行うことができた。	コロナ禍できない行事があっても、2学年や3学年単位でできる縦割り活動を取り入れるなどし、様々な方法で協力する心や思いやりの心を育てていく。	
				縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしていた。	児童	成果指標	80	98			
				学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80	97			
	⑧	豊かな感性	豊かな感性を育む。	美しさに触れる活動を通して、豊かな心を育む環境づくりを行っている。	教師	取組指標	90	100	昨年度に比べて、美しいものに触れる体験や活動は減ったが、たたり遠足で創作の森を利用したり朝の鑑賞活動を継続したりして、子どもたちの「もの」を見る目や感動する心等が育っている。	校外学習などで創作の森や県内美術館などを利用し、鑑賞活動等を通して豊かな感性を育てる活動を実施していく。その内容を保護者に伝えていく。	
				生活の中で、「いいな」「美しいな」を見つけようとした。	児童	成果指標	80	95			
				学校は、芸術に触れる体験をし、豊かな感性を育てる活動を十分行っている。	保護者	満足度指標	80	88			

令和3年度 後期 細呂木小学校 学校評価 総合シート

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体	⑨	基礎体力の向上	体育授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、ダンス、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	体力向上への取組は、特に児童・教師の意識が高く、効果が出ていると考える。	学年通信や学校だより等で、細呂木タイムでの取組の成果を伝える。	
				体育の授業や細呂木タイムの体力づくりに、がんばった。	児童	成果指標	90	100			
				昨年または年度初めのころと比べ、(細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベース、ダンス、縄跳び等を行い)子どもの体力は向上した。	保護者	満足度指標	80	82			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。	今後も、常にいじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。日頃から学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。教師の目に見えないところで起きていることや悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	97			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	97			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、給食週間等での望ましい食習慣等)。	日常的な健康習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	日常的な健康習慣は、ほぼ身についていると思われるが、食のマナーについては、家庭と連携して指導していくことが課題となっている。	日常的な健康習慣づくりの指導を、家庭と連携しながら今後も継続していく。	
				朝の清潔検査・歯みがき・食のマナーを守ることができた。	児童	成果指標	80	97			
				子どもには、学校での日常的な健康習慣づくり(清潔チェック・歯みがき・食のマナー等)の指導が役立っている。	保護者	満足度指標	80	82			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	タブレットの導入によって、学年の応じたインターネットやSNS等の利用のルールについて話し合う機会をもつことができない。	日頃から、インターネットやSNSの使い方やゲームの仕方について、声かけをする。また、学活の時間等を使って、ルールについて考えたり、自分の使い方について振り返ったりする。	
				ネット利用やテレビ、ゲームの時間等、約束したことを守ることができた。	児童	成果指標	80	91			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりが、できている。	保護者	満足度指標	80	84			

○箸の持ち方、鉛筆の持ち方、タブレットの利用の仕方など、これらは最も扱う量の多いところが責任をもって押さえる必要があると思う。(決してどうでも良いというものではない。)

○SNSの時代において特に重要なことは、使う上でのルールをしっかりと守ることを教えることです。子どもより大人の方がルールを破っているらしい。ルールは親子で話し合い、お互いが守ることが必要。これもPTAで話し合った方が良いと思う。

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開 か れ た 学 校 ・ 地 域 と の 連 携	⑬	ふるさと教育	地域にある文化財や地域行事等を活用したふるさと教育を行っている。	地域にある文化財や地域行事等を活用したふるさと教育を行っている。	教師	取組指標	90	88	冬期間は活動が少なく、子どもたちの十分な自主的、主体的な学びはできなかった。また、コロナ禍であることなど、地域の行事も縮小している。	体験活動だけではなく、地域のよさに気付くような事前・事後学習をしっかりと行う。	○子どもたちが郷土愛をもった人生を送っていただけるよう、協力できることがあれば尽力したい。 ○県外にいる孫に置き換えて「ほそろぎっこだより」を楽しく読ませてもらっている。学校行事や地域のふれあいなどを読み、見るたびに、あたかも細呂木小学校に通っている子であるかのように、ラインで「何した」「これした」と話し合い、楽しんでいる。可能なら、A3サイズにして、もう少し字体や写真を大きくしていただければありがたい。遠く離れた子どもたちに置き換えて読んでいる祖父母世代も細呂木に多いのではないかと考えている。
				地域の学習に参加して、地域に興味があった。	児童	成果指標	90	93			
				子どもは、地域の学習に進んで参加している。	保護者	満足度指標	80	92			
	⑭	積極的な情報発信	学校だより・学年通信・保健だより・図書だより（月1回以上発行）、ホームページで、学校・児童の情報発信を積極的に行う。	学校だより・学年通信・保健だより・図書だよりを月1回以上発行し、学校・児童の情報発信を積極的に行っている。	教師	取組指標	90	100	学校に足を運ぶ機会が少なく、なっている現状の中、学年通信や学校だより、ホームページでの学校行事の様子を紹介等、保護者への情報発信を積極的に行った。保護者の満足度も高かった。	今後も情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。各学年の様子が分かるように、ホームページを充実する。	
				学校だより・学年通信・保健だより・図書だより、ホームページで、子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度指標	85	93			
				地域と関わる活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100			
⑮	連携の質向上（家庭・地域・学校の連携）	校区内の各地域や外部関係機関、子ども園、他校（小中学校）との密接な情報交換と連携に努め、連携の質を高める。	見守り活動や奉仕活動等に参加する等、地域や家庭として学校行事等に関われることについて考えた。	保護者	満足度指標	80	76	冬期間であること、コロナ禍であることなど、活動に制限がかかっている中、地域の方々の協力を得て、地域に根ざした諸活動を多く実践することができた。	地域と関わる活動を計画的に行い、その様子を学年通信や学年だより等で発信していく。		